

西濃農林事務所の普及活動状況

平成25年9月26日現在

今月の重点活動

■下宮青果部会協議会 下宮版GAP研修会を開催！！

神戸町の下宮青果部会協議会では、自主GAPに取り組んでおり、本年は会員全戸を対象に内部検査を行い、検査結果の公表とともに、更なる研鑽のため研修会が開催された（8月27日、9月3日の2日間）。GAPの取り組みにより、出荷調整場所の整理が進み、異物混入等のクレームは減ったものの、本年は小松菜で例年を上回る出荷物の品質クレーム（トロケ、黄葉）があったため、公開検査等で品質チェック等を強化していくこととなった。

農業普及課では、協議会の自主GAPの取り組みに対し、内部検査方法やチェックリストの作成などの支援を行っている。

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー 新規栽培農家事前研修会の開催

今年から新たにブロッコリー栽培を行う、神戸町の営農組合を対象に、9月29日に栽培前研修会が開催され、畝立て・定植日程の決定、作業段取りについて検討した。当組合では、約13aの栽培を行う計画である。

農業普及課からは、畝立て、定植時の作業ポイントについて説明し、農家からは、作業に必要な人数等について質問があった。



【栽培前研修会の様子】

売れる農畜産物づくり

■小麦 平成26年産小麦の生産に向けて

平成25年産小麦は、農林61号が3,766t、イワイノダイチが2,578tの生産実績となった。10a単収は、それぞれ5.0俵、6.2俵と、豊作であった昨年産を下回ったものの、平年並みの収量は確保することができ、大規模実証ほ(30ha)のさとのそらも、6.6俵/10aの収量となり、農林61号の切替品種として期待できる実績となった。

外観品質は、3品種とも2等調製と課題を残すこととなったが、成熟後期に高温・干ばつが続いたため、成熟期間の短縮による充実不足の影響が大きかったと考えられる。

農業普及課では、JAとの連携のもと、現地巡回や播種前研修会を通して、排水対策の徹底、適期播種・適切な栽培管理により、平成26年産小麦の高収量・高品質生産について支援することとしている。

■トマト 海津トマト部会第1回全員研究会の開催

9月6日に、海津トマト部会による平成26年産トマトの第1回全員研究会が開催された。農業普及課からは、9月4日に豪雨があったことから、ハウスの出入口の止水対策について説明するとともに、平成25年産の単収等の結果や高単収者の栽培の傾向を示し、栽培のポイントを把握する手立てとした。

また、平成26年産に向けて、肥培管理・病虫害対策等について、実証区の成果等を踏まえて説明し、やや長時間の研修会となったが、生産者の関心は概ね高かったと感じた。

■きゅうり 抑制栽培研究会の開催

9月4日に、海津胡瓜部会抑制栽培研究会が開催され、農業普及課から、キュウリ黄化えそ病対策や今後の栽培管理等について指導を行った。

平成26年産抑制栽培の出荷は、高温の影響により、昨年より7日遅い9月16日から始まっている。今作では、ミナミキイロアザミウマの防除対策として、天敵農薬(スワルスキーカブリダニ)を、農家数9戸、栽培面積2.2haで利用している。また、ハウスサイドに0.4mm赤色防虫ネットを被覆した実証圃を設置しており、今後、効果の確認を行っていく。

■いちご 栽培研修会の開催

海津いちご部会（8月29日）、平田町園芸組合いちご部会（8月30日）、養老町いちご連絡協議会（9月13日）ごとに、栽培研修会が開催された。

定植前の最後の仕上げ管理、定植後の管理について説明し、花芽検鏡の結果に応じた適期定植を呼びかけた。花芽分化日の平均は、濃姫と美濃娘が9月14日、栃乙女が9月15日と、平年並みの分化時期となった。

■ナバナ 播種作業の省力化

9月に入り、ナバナの播種・育苗が開始されており、作業の省力化のためにシーダーテープを用いた直播栽培が導入されつつある。本年度は、昨年の1.5倍の29名で直播栽培が取り込まれることとなり、播種作業の支援を行った。

■春菊 苗作りを支援

8月下旬から、春菊の苗作りが始まっており、今年はハスモンヨトウの食害被害が多いため、注意喚起とともに防除指導を行った。また、今年から新規に取り組む生産者に対し、育苗をはじめとする栽培指導を行った。

■なし 晩生品種梨の収穫始まる

幸水の出荷・直売は、9月上旬で終了（市場出荷量対前年度比 114%）し、晩生品種豊水の出荷は、8月28日から始まり、その他新高、あきづき、新星が出荷・直売されている。

農業普及課からは、一部の地域で8月中旬頃までハダニ類の発生が見られたことから、関係機関と連携し、生産者に対して随時、防除対策について情報提供を行った。

戦略的な流通・販売

■クレール平田 野菜栽培講習会の開催

9月19日に、クレール平田農産物直売所へ出荷している生産者を対象に、野菜栽培講習会を開催した。農薬の安全使用、たまねぎ及びこまつな栽培のポイントなどについて説明し、野菜栽培の適切な管理について支援した。

多様な担い手の育成・確保

■FBC 秋花壇地方審査実施

9月10日に、西濃ブロックにおける岐阜県学校花壇コンクール地方審査を実施し、上位2校（大垣市立時小学校、掛斐川町立小島小学校）を中央審査へ推薦した。

今年は、高温、そして9月の豪雨等、過酷な夏であったが、いずれの学校も生き生きした出来映えの花壇であった。



【取組を発表する児童】

県民みんなで育む農業・農村

■ブロッコリー 定植体験の開催

9月4日に、JAにしみのブロッコリー生産協議会大垣部会が、青墓小学校3年生80人に対し、食育活動としてブロッコリー定植体験を開催した。

農業普及課から、定植前にパネルを利用し、ブロッコリーの栽培方法、ぎふクリーン農業制度、苗の植え方について説明を行った。生徒は、ブロッコリー苗4株を受け取り、スコップを使って定植を行った。12月には、収穫体験が予定されている。



【定植体験の様子】